

日台交流の輪を広げる

静岡理工科大、台湾の大学と連携 袋井国際交流協会

袋井市の静岡理工科大学はともに科学技術系 進展した。

大(野口博学長)、袋井国際交流協会(下山好治会長)と、台湾の聖約翰科技大は今月、学術や文化の日台交流を連携して進めることで合意し、覚書を交わした。

聖約大は台湾北部の新北市にある、科学技術系の私立大学。両大

戦前の台湾で農業発展に貢献した水利技師、鳥居信平(一八八三〜一九四六)が袋井出身という縁から、袋井国際交流協会も加わ

で、艾和昌学長と静岡理工科大の機械工学科長・国際交流センター長の十朱寧教授が旧知の間柄であることから、連携に向けて話が

①覚書を取り交わす艾和昌学長(左)と十朱寧教授
②覚書を取り交わす艾和昌学長(左)と下山好治会長
※いずれも台湾で(袋井国際交流協会提供)

り、交流を進める。

八日に十朱教授、下山会長が聖約大を訪れて覚書を交換した。今後、教員や学生同士の交流や技術の情報交

換、研修などで協力関係を深める考え。

下山会長は「台湾ではダム開発などに尽力した鳥居信平の知名度が今も高く、今回の連

携の背景となった。民間交流の輪が行政にも広がっていけば何より、十朱教授は「両大学の特色を生かして成果をあげたい」と話した。

(正木徹)

